学習支援ソフトウェアとICT支援員の一体採用で授業におけるICT活用率が大幅に向上

岡山県　岡山市教育委員会

岡山市では、GIGAスクール構想で配備された1人1台端末の有効活用のため、2024年度から全市立小・中・義務教育学校に、AI搭載のデジタルドリルと授業支援ソフトが同一アカウントで利用できる学習支援ソフトウェアを導入。「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実に向け、授業におけるICTの活用率が大きく向上している。

プロフィール

2021年3月に策定した第2期岡山市教育大綱では、目指す子どもの姿に「自らの個性を磨き、選択と挑戦を繰り返すことができる子ども」を掲げ、その実現に必要な5つの力として「活用力」「表現力」「向上心」「社会性」「人権尊重の精神」を設定。5つの力の基礎として2つの目標「全国平均レベル以上の学力」と「新規不登校児童生徒の減少」を設定し、施策の実現に向けて取り組む。

人口 約69万3,200人　**面積** 789.95㎢
市立学校数 小学校87校、中学校37校、義務教育学校1校
児童生徒数 小学生約3万4,200人、中学生約1万6,900人　**教員数** 約3,200人

学習支援ソフトウェアの全市立学校への一括配置

目的
❶「個別最適な学び」と「協働的な学び」を充実させる
❷全国平均よりも低かったICTの活用率を向上させる

内容
AI搭載のデジタルドリルと授業支援ソフトが同一アカウントで利用できる学習支援ソフトウェアを全市立小・中・義務教育学校に導入。デジタルドリルを活用した「個別最適な学び」と、授業支援ソフトを活用した「協働的な学び」の実現を進める。ICTの活用支援については、各学校を訪問するICT支援員（2024年度は約25人、2025年度は約5人を確保）とオンラインサポートを、学校の希望に応じて利用できる体制を整えた。

実施年度
2024年度に単年度導入。2025年度からは3か年にわたって継続。

対象
小学1年生～中学3年生

教育研究研修センター
情報教育推進室　室長
求广川真一
くまがわ・しんいち
岡山市立小学校教諭を経て、2025年度から現職。

教育研究研修センター
情報教育推進室　副主幹
平井秀尚
ひらい・ひでなお
岡山市立小学校校長等を経て、2024年度から現職。

事業概要

ICT活用率向上のために学習支援ソフトウェアを配備

岡山市教育委員会（以下、市教委）では、2024年度に事業費約1億7,500万円をかけて、全市立小・中・義務教育学校（以下、全市立学校）に学習支援ソフトウェア「ミライシード」*1を導入するとともに、ICT支援員*2の学校訪問とオンラインによるサポート*3でその活用を支援する体制を整備した。

市教委では、「自らの個性を磨き、選択と挑戦を繰り返すことができる子ども」の育成を目指して、各学校でICTを活用した授業改善を進めるため、研修の充実や指導主事などによる助言を行ってきた。だが、2023年度に実施された文部科学省「全国学力・学習状況調査」において、岡山市は授業におけるICT活用率が全国平均よりも低いという結果が出た。そこで市教委は、全市立学校が共通で活用する学習支援ソフトウェアを導入し、ICT操作に不慣れな教員に対するサポートを強化することで、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一層充実させたいと考えた。

新規事業スタート時、全市立学校の教育の情報化の推進を担う教育研究研修センター情報教育推進室の室長を務めていた赤枝辰哉先生（2025年度から岡山市立灘崎（なださき）小学校教頭。プロフィールはP.22）は次のように当時を振り返る。

「2023年度は、市教委が3種類の学習支援ソフトウェアを選定し、各学校の裁量で選び、活用するようにしました。その後、1年間活用した結果を各学校から聞き取るとともに、デジタルドリルと授業支援ソフトの

＊1　協働学習、一斉学習、個別学習それぞれの学習場面で活用できる複数のアプリケーションで構成された、ベネッセのタブレット学習プラットフォーム。
＊2　学校でICT機器やソフトの活用支援を行う外部人材。ベネッセでは訪問型とオンライン型でICT支援員がICTサポートをするサービスを提供している。
＊3　ICT機器やソフトの活用支援を行う、ベネッセが提供するオンラインICTサポート。オンラインでICT活用の相談ができ、メタバース空間での相談も可能。

授業や家庭学習での有効性等を検討し、2024年度の単年度について、デジタルドリルと授業支援ソフトが同一アカウントで利用できるミライシードを全市一括で採用することとしました」

同時に、全市立学校125校から寄せられてくるソフトの使い方の悩みや疑問に個別に対応するために、学習支援ソフトウェアと併せて、デジタルドリルと授業支援ソフトの機能を熟知したICT支援員を採用し、全市立学校に配置した。

「各学校からは『ICT支援員が積極的に授業展開の提案をしてくれるのでありがたい』『ICT活用に関する疑問をオンラインで気軽に相談できるのがよい』という声を多く聞きました。実際、ICT支援員と相談しながら学習支援ソフトウェアを活用して新しい授業に挑戦するケースが多く見られました」（赤枝先生）

事業実施までの経緯

学校訪問や公開授業で、好事例の普及を促す

2024年度、学習支援ソフトウェアの活用を促進するために、市教委がこれまで以上に力を入れたのが、学校現場とのコミュニケーションだった。情報教育推進室に所属する担当者が全市立学校を訪問し、導入した学習支援ソフトウェアの活用状況を聞き取っていったと、情報教育推進室の平井秀尚副主幹は説明する。

「ICT活用に関する学校訪問では、情報教育担当の教員が窓口になることが多いのですが、2024年度は、情報担当の教員ではなく必ず校長と会うようにしました。1人1台端末を活用するよさを市教委と校長が共有することで、学校全体がICT活用に対して前向きになると考えたのです」

図1　2024年度に実施した公開授業（抜粋）

	学年	教科	単元
小学校	1年生	算数	かたちづくり
	1年生	体育	たのしく　おどろう
	3年生	道徳	みんなのために
	4年生	理科	物のあたたまりかた
	5年生	国語	心の動きを短歌で表そう
	5年生	理科	流れる水のはたらき
	6年生	国語	海のいのち
	6年生	社会	町人の文化と新しい学問
	6年生	家庭	献立を工夫して
	特別支援（3年生）	社会	岡山市の生活のうつりかわり
中学校	3年生	理科	運動とエネルギー
	3年生	英語	Lesson6 Imagine to Act

※岡山市教育委員会の提供資料を基に編集部で作成。

校長を通して各学校の実態を把握していく中で、学習支援ソフトウェアを活用した具体的な事例を求めている教員が少なくないことが分かってきた。そこで市教委は、全市立学校から12校を選定し、2024年10月から22の公開授業を実施した（**図1**）。

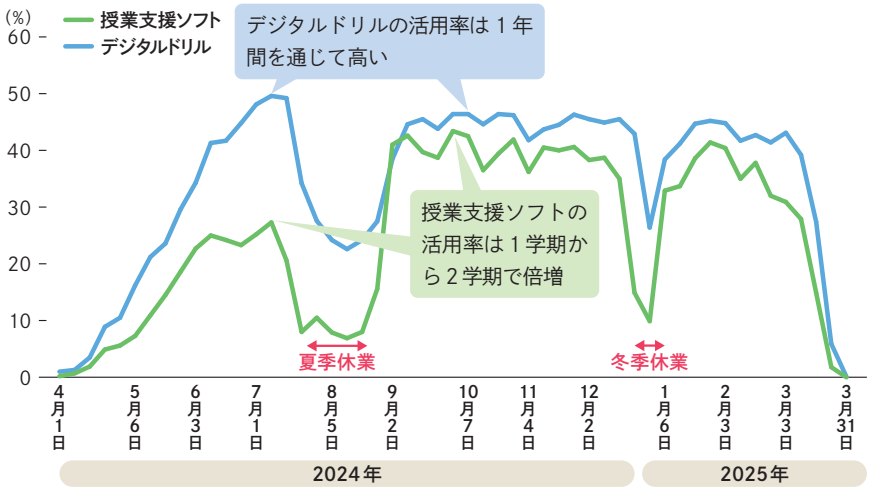
「全市立学校には、22の公開授業のうち、少なくとも1つは見学するようにお願いをしましたが、教員が手分けして、いくつもの授業を見学に行った学校もありました」（平井副主幹）

全市立学校が共通の学習支援ソフトウェアを採用したことで、学校を超えた好事例の共有も促進された。

「公開授業に参加した小学校教員が、授業で使用されていた教材を共有してもらい、自校の授業で使ってみるなど、事例の普及も進みました」（平井副主幹）

また、学習支援ソフトウェアを導入した当初は、教員たちが児童生徒に積極的に活用を促していたのはデジタルドリルだった。だが、情報教育推進室の担当者の学校訪問やICT支援員のサポートによって、2学期以降は授業支援ソフトを活用した児童生徒の割合も増加（**図2**）してきており、授業改善が大きく進んだと考えられる。

図2　学習支援ソフトウェアを利用した児童生徒の割合



※週単位の利用者割合を集計。
※岡山市教育委員会の提供資料を基に編集部で作成。

成果と展望

授業におけるICT活用が大きく進展

2023年度から2024年度に市教委が期間を空けて実施したアンケート調査を比較すると、ICT活用に関して大きな改善が見られた（**図3**）。「ICTを使うと勉強が分かりやすく発表しやすい」は、特に中学３年生において72.1%と前回の64.6%から増加した。また、「授業でICTをほぼ毎日使う」は小学6年生は66.3%（前回19.8%）、中学3年生は38.9%（前回13.7%）と飛躍的に伸びた。

2024年度にICT活用が大きく進んだことを受けて、市教委では、学習支援ソフトウェアの全市立学校への配備を、2025年度から３か年にわたって継続することとした。また、ICT支援員のサポートを、学校訪問ではなくオンライン中心にすることで、教員の悩みや疑問により迅速に対応できる体制を整えたと、情報教育推進室の求(くま)戸川(がわ)真一室長は説明する。

「訪問によるサポートとオンラインによるサポートのどちらがよいかは学校の状況によって異なります。授業改善の実践が進んでいる2025年度は、オンラインによるサポート体制を充実させ、教員の疑問を迅速に解決することを目指しました」

好事例の普及を促すための公開授業も拡充する。昨年度12校で実施した公開授業は今年度は15校を予定している。

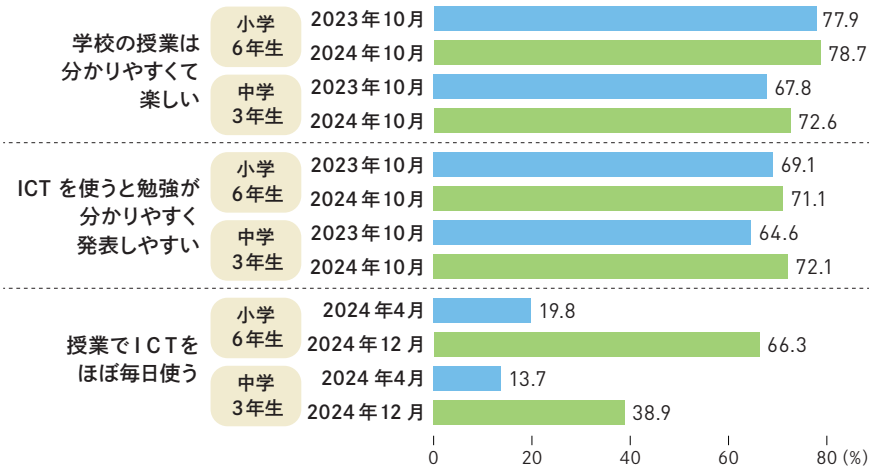
「さらに、公開授業の共通テーマを、『ICTを活用した探究的な授業』としました。子どもたちがこれからの社会を生き抜くためには、自ら問いを見つけ、情報を収集し、それらを整理・分析して、発表するという探究のプロセスを経験することが、小・中学校の段階から必要です。ICTを活用することで、探究のプロセスをどれだけ豊かなものにできるかを、公開授業を通して全市立学校の教員と考えていきたいと思っています」（平井副主幹）

岡山市全体ではICTの活用は進んでいるが、学校間での活用率の差はまだまだあるという。求戸川室長は「子どもたちの資質・能力の育成にICTが有効であると実感できる事例を今後もピックアップし、市内の各学校に共有していきたい」と語る。

「今年度、公開授業を実施する15校のうち、昨年度に続いて行うのは３校だけです。特定の学校にICT活用の知見を積み重ねるのではなく、市内のすべての学校に新しいチャレンジをしてもらいたいからです。そうすることで、岡山市のすべての子どもが夢中になれる授業づくりの実現に近づけると考えています」

市教委では、文部科学省「全国学力・学習状況調査」における「無解答率」の減少を今後の課題の1つに挙げている。ICTの活用によって子どもたちの学習意欲が向上し、探究的な学びが各教科で進んでいくことで、無解答率も減少することを市教委は期待している。ICT活用率がただ上昇するだけではなく、ICT活用を通して子どもたちの学びへの向き合い方がよりよく変わっていくかどうか、市教委として見極めていく考えだ。

図3 ICT活用の成果



※岡山市教育委員会の提供資料を基に編集部で作成。

新規事業の実現までのストーリー

課題
低かったICT活用率を向上させるため、授業改善に確実につながる学習支援ソフトウェアの導入が必要。

▼

検討過程
全市立学校で３つの学習支援ソフトウェアのいずれかを利用。ICT支援員のサポートも含めた活用のしやすさを各学校で確認。

▼

単年度で学習支援ソフトウェアを一括採用。市教委による全市立学校の訪問と公開授業の実施などを通して、活用事例を各学校に共有。

▼

実施
ICT活用が進んだことを確認し、学習支援ソフトウェアの一括採用を単年度から複数年度に拡大。

学校事例

ICT 活用の取り組み事例を教員間で共有し、実践力を高める

岡山市立灘崎小学校

校長
野崎尚子
のざき・なおこ
同校に赴任して３年目。

教頭
赤枝辰哉
あかえだ・たつや
同校に赴任して1年目。2024年度まで教育研究研修センター情報教育推進室室長。

教務主任
服部哲也
はっとり・てつや
同校に赴任して５年目。

■学校概要　設立 1907（明治 40）年　児童生徒数 259 人　学級数 15 学級（うち特別支援学級５）　教員数 22 人

終礼の時間に短時間で取り組みを紹介

岡山市立灘崎小学校では、学習支援ソフトウェアを導入した2024年度の1年間で、学校の学びが大きく変わったと野崎尚子校長は振り返る。

「授業中、端末上で子どもたちのワークシートの内容を確認し、その場で授業展開を変えるなど、教員の授業の進め方も大きく変わりました」

ICT活用に関する教員のスキルアップを牽引するのが教務主任の服部哲也先生だ。服部先生は、「ミライシード」の使い方を同僚から聞き取り、校内研修などで紹介している。

「生活科で町の風景や植物の成長を写真に収め、それをクラスで共有して話し合ったり、学校行事についてのクラスの意見を『オクリンク』のカード機能を使って整理したりした事例を、校内研修で紹介しました（**図４**）」

服部先生は、校内研修に限らず、職員室の中で「ICTを使ってこんな授業をやってみたのだけど」といった言葉を耳にする度に、すぐにその教員に詳細を聞き、校内に共有している。

「聞き取った内容は、終礼の時間などでごく簡単に紹介するようにしています。私が同じ教員の目線で『この使い方がユニークだと思います』などと紹介することで、他の教員も興味を持ち、自分の授業でも試してみようと思ってくれているようです」（服部先生）

ICT活用の土台となる哲学を持つ

授業中におけるICT活用があたり前になると、子どもたちにも「自分が気がついたこと、記録したことはみんなで共有し、話し合うものである」という共通認識が生まれる。実際、授業やホームルームなどで子どもたちから「端末を使ってみんなの意見を集めて整理したい」と、提案の声が上がることも増えているという。

赤枝辰哉教頭は、市外の先進事例に触れる機会も増やしたいと語る。

「校内での実践事例を自分の授業改善に生かしてきた本校の教員であれば、先進的な事例の中からでも、自分の授業改善につなげられるポイントを見いだすことができるはずです」

野崎校長は、「ICT活用が進んでいるからこそ、一つひとつの教育活動でどのような資質・能力を育もうとしているのかを常に確認することが求められる」と指摘する。

「ICTを使って何をしたいのか、目の前の子どもたちにどんな成長があったのか、目的の設定や評価方法につながる哲学を持つことが、私たち教員に求められていると思います」（野崎校長）

図４　服部先生が校内研修で使用したスライド（抜粋）

低学年、中学年、高学年ごとに汎用性のある事例を校内研修で紹介した。

同僚の「ミライシード」の活用事例を紹介した後、それらの実践から抽出できたポイントを紹介した。

※灘崎小学校の提供資料をそのまま掲載。